特別講演

主催　医学教育センター 卒後教育委員会
後援　国際医療センター　病理診断科
平成30年2月5日　於　国際医療センター教育研究棟2階　大講堂
本部棟1階第3講堂（テレビ会議システム使用）
総合医療センター管理棟2階カンファレンス3（テレビ会議システム使用）

がん登録で判明する施設のがん診療の現状と研究応用の可能性

東　尚弘

（国立がん研究センター　がん対策情報センター　がん登録センター）

平成30年2月5日，卒後教育委員会主催学術集会・第110回埼玉医科大学国際医療センター包括的がんセンター教育カンファランスとして，国立がん研究センター・がん対策情報センター・がん登録センター長の東尚弘先生に，「院内がん登録でわかる診療実態と研究活用」の演題でご講演をいただきました．講演内容は1）がん登録の種類：院内がん登録とは，2）院内がん登録の活用事例，3）院内がん登録を自分で利用するには，からなる3部構成であり，1）部では，がん登録の種類，院内がん登録の特徴，院内がん登録の実施根拠，院内がん登録関連の法律・指針，院内がん登録への期待，がん登録集計施設数・件数，予後調査支援の仕組み等につき説明がなされました．2015年の症例登録数では，上位5位は大腸癌，肺癌，胃癌，乳癌，前立腺癌であること，稀少がんである骨軟部肉腫症例が3千件を超える症例登録があったことを提示されました．がんの予後調査検討では，院内データのみで行った検討と，市町村役場の予後調査を併用し行った検討では，実際の生存率に明らかな差が認められ，時間の経過と共にその差は歴然となること，市町村役場の予後調査を併用し行った検討の方が正確な予後調査を実施することができることが示されました（図1：東先生発表スライドより引用）．予後調査法の重要性が明らかとなったわけですが，十分な予後調査を行うための国立がん研究センターが取り組んでいる予後調査支援法についての説明もなされました．

2）部では，施設の診療実態の把握方法，各拠点病院における患者年齢分布の相違，稀少がん初回治療開始件数分布の現状，紹介元・患者自身のがん登録情報の活用方法，がん対策の評価方法，全国がん登録データの活用方法，がん

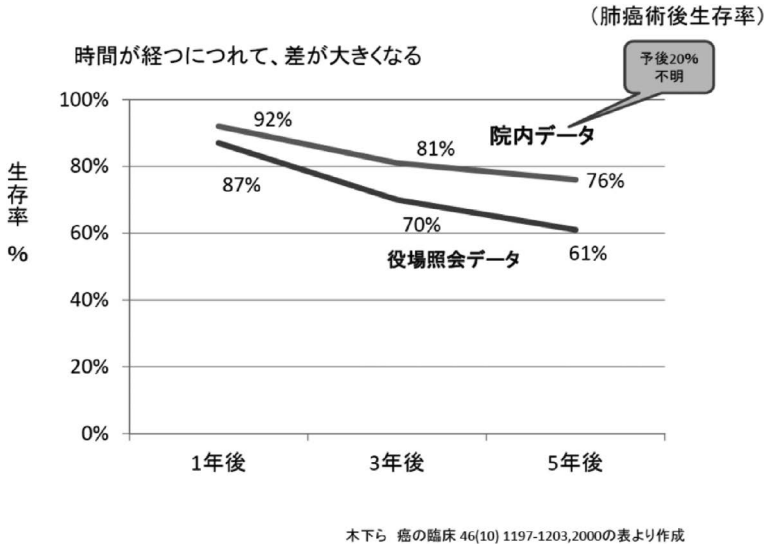

図1

参加施設における標準診療実施率
（2013）

がん	QI	全参加施設：297施設 患者数	実施率
大腸癌	pStageIIIの大腸癌への術後化学療法(8週以内)	9352	55.5%
肺癌	cStageI～II非小細胞肺癌への手術切除または定位放射線治療の施行	18883	88.6%
	pStageII～IIIA非小細胞肺癌への術後化学療法（プラチナ製剤を含む）	3790	43.8%
乳癌	70歳以下の乳房温存術後の放射線療法（術後180日以内）	10987	73.9%
	乳房切除後・再発ハイリスク(T3以上N0を除く、または4個以上リンパ節転移)への放射線療法	1227	36.9%
胃癌	pStageII～III胃癌へのS1術後化学療法（術後6週間以内の退院例）	5286	66.9%
肝癌	初回肝切除例へのICG15分の測定	3245	92.3%
支持療法	嘔吐高リスクの抗がん剤への３剤による予防的制吐剤(セロトニン阻害剤、デキサメタゾン、アプレピタント)	43412	73.2%
	外来麻薬開始時の緩下剤処方	15386	64.2%

（報告書はがん臨床情報部のHPでダウンロード可）

図 2

登録より得られた患者の方々の安心・QOL 調査結果，リンクによるがん登録データの拡充方法・長所・今後の課題，がん登録に基づく DPC 調査データの内容例，院内がん登録データと DPC データを組み合わせることにより明らかとなる事項，がん登録参加施設における標準診療実施率（図 2：東先生発表スライドより引用），がん登録参加施設における標準診療未実施率とその理由などにつき説明がなされました．診療実態では，埼玉県内では，がん登録数は埼玉医科大学国際医療センターが 1 位であり，臓器別では，大腸癌，胃癌，肝癌，乳癌，胆膵癌，前立腺癌，婦人科癌などが県内 1 位であることも提示されました．また，院内がん登録をより詳細な登録データとするために，病理診断レポート，放射線画像データ情報をがん登録にどのように組み込んでいくのか研究中であり，病理レポートデータの自動登録システム実現の可能性を検討中とのことでした．

3）部では，全国がん登録データを利用するために必要な申請書類群，がん登録個票データの利用方法，特定のがん種の診療病院の検索方法などにつき説明がありました．

東先生ご発表後は，包括的がんセンター長佐伯俊昭先生，診療情報管理室室長牧田茂先生，池澤敏幸医務部長などから質問があり，活発な質疑応答がなされました．

がん登録は，その施設（大学附属病院等）におけるがん患者数の把握だけでなく，がんの診断，治療及び治療後成績などを把握する上で重要な役割を担っています．充実したがん登録が行われているか否かは，当該施設のがん診断，治療，治療後成績などを正確に評価する上で極めて重要な指標となります．また，充実したがん登録データは，臨床試験・治験・症例研究・基礎研究などの研究の質の維持・向上にも役立つことより，埼玉医科大学群においても充実したがん登録データの作成が急務と考えられました．

（文責　国際医療センター・病理診断科　長谷部孝裕）

© 2018 The Medical Society of Saitama Medical University